

平成二十年度予算決定

昨年十九年度の当初予算は、五千七百九十四億円、平成二十年度は、五千六百七十二億円となりました。本日に厳しいです。昨年国からの交付税が、国及び地方の税収が鈍化する中、微増したのにも関わらず、県税収入が減少すると見込まれることから、平成二十年度は百二十二億円の減少、2・1%の削減という予算が編成され議決されました。

本日に、知事の言うプライマリバランスの黒字化だけを優先していいのだろうか？私は、厳しい中にも必要なものには投資をして県民の元気と体力を養いつつ、要望に応えていくことも行政の仕事と考えます。そのうえで改革を進めるべきではないでしょうか。

農林水産常任委員会を振り返って

山形県の基幹産業と位置づけている「農業」に対しても、東北で最も低い予算処置。このような状況下で発覚した中国の餃子農薬混入問題。この混入原因について結論は出ていませんが、日本の企業が食品の低価格販売を優先したことが生んだ結果と考えます。「安い」も大事ですが、食で最も重要な「安全」がうやむやになってはいけません。ではないでしょうか。

また、昨年日本で発覚した食品の偽装・偽造問題も、輸入品との価格競争から発生したとも言え



農林水産常任委員会視察
(温海カブ栽培状況)

ます。中国の餃子農薬混入問題以来、日本への農産物輸入量は4割減となりました。

現在、日本の食糧自給率がカロリーベースで4割を切り、39%と戦後最も低くなっています。国も自給率向上対策として、早急に農業施策等を講じておかないと、本当にとんでもない事態を招くと懸念しているところです。グローバル競争が一層激化する中、日本の食に対する考えや施策をも一度徹底的に検証する必要があります。

県は、農業を基幹産業と位置づけています。それなら、名ばかりでなく、思い切った施策を打ち出すべきではないかと考えます。財政が厳しい中で、執行部も懸命に努力しているのは理解しています。でも前に進まなくては・・・。

今後とも皆さんと知恵を絞って、課題解決に向けて、正面から当たってまいります。

「西村山地区高校再編教育検討委員会」を設置

教育委員会では、県立高校の将来のあり方を検討すべく「県立高等学校将来構想検討委員会」を設置し、平成十六年三月に報告書の提出を受けました。これを踏まえ、高校教育改革に関する具体的な取り組み内容を表した「県立高校教育改革実施計画」を策定しました。その再編計画に準じて改革計画が進められてきましたが、平成二十年度に、西村山地区再編整備計画について検討会が設置されることとなりました。その検討結果を基に平成二十六年三月まで再編を行う予定となっております。

すでに、西村山地区も高校再編に向けて動き出しており、谷地高校商業科が平成十八年度に廃止となり、さらに、寒河江高校普通科が平成二十年度に一学級減となっております。

その要因は、何ものでもなく少子化であります。下表に示した中学校卒業生数は、平成十六年〜平成二十六年までの十一年間で三千七十五人減少すると推計されています。このことから、県では平成十六年度二百四十八あった学級を百九十三学級程度と、五十五学級減減じる構想を打ち出しているのです。

私たちの住む西村山地区には、普通・工業・商業・農業と、郡内にすべての分野と言っていい教育施設がそろっていました。検討委員会の推移を見守ると同時に、今後どうあるべきかしっかり提案していきたいと思えます。

また、私は高校再編について、西村山地区内だけを考えて検討するのではなく、将来、県全体の高校教育がどうあるべきか広い視野に立って検討していかなければならないと考えます。

地域の皆様と議論しながら再編について意見を交わし、次代を担う子供たちが、将来、社会で活躍できる学習環境を整備しなくてはならないと考えます。点で考えるのではなく、面的に考える高校編成の実現に努力します。また、この要因となった少子化対策にもしっかりと取り組んで参りたいと思えます。

【下段推計表参照】

ふるさとやまがたの元気対策

平成二十年度ふるさと「やまがた」元気対策として七十億円が計上されることとなりました。

主な内容は、社会資本長寿化対策として橋梁の長寿命化、その他の安全確保のための施設等の補修・改善対策としての、信号灯器のLED化による省電力化、県立学校等の耐震化対策などがあげられます。

また、自動車産業など産業の育成、山形セレクトシヨンの情報発信力強化などを盛り込んだブランド戦略の推進、県産農産物の新たな販路拡大など、やまがた農業のさらなる強化などがあげられています。



例えば橋の長寿命化ですが、古くなった橋を架け替えるとなると莫大な事業費が必要となります。通常橋梁の寿命は施工後六十年と言われ、三十年は寿命を延ばせることとなります。新たなものを作ってお金を掛けるのではなく、今あるものを元気にするための対策なのです。

私は、やまがた元気対策により、県民も元気になるような施策の充実に努めていかななくてはならないと思えます。

【西村山郡市町と県全体の中学生卒業生数推計表】

(※「卒業生数」は各年3月の中学校卒業生数)

卒業年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	26年-16年
寒河江市	581	497	472	490	462	470	466	412	425	409	408	
河北町	255	237	221	229	198	210	17782	198	197	165	198	
西川町	82	59	68	77	60	67	61	53	55	51	48	
朝日町	107	105	76	92	75	86	82	64	74	53	77	
大江町	98	114	109	108	105	101	92	97	76	71	83	
合計	1,123	1,012	946	996	900	934	878	824	827	749	814	-309
対前年比		-111	-66	50	-96	34	-56	-54	3	-78	65	
県全体	13,996	13,130	12,623	12,689	12,092	11,860	12,083	11,428	11,451	11,000	10,921	-3,075
対前年比		-866	-507	66	-597	-232	223	-655	23	-451	-79	